

入浴関連死の最多原因はヒートショックなどではない

救急隊から報告されたデータによると

浴槽内での事故発生 = 76%

洗い場での事故発生 = 18%

脱衣所での事故発生 = 4%

要するに、脱衣所や洗い場が寒くても、そこでの事故発生は少ない。

それらのうち、死に至っているのは

殆どが**自宅の浴槽内**

一方、公共施設での事故発生の場合は、目撃者が通報/救助に当たるため、死亡に至らないことが多い。

要するに、自宅の浴槽内では入浴者が一人で居るため、救助されずに死に至る。

なぜ死に至るのか

自宅の浴槽内で死に至った例の**約7割が、顔面水没(溺死)**

その他は、熱い湯による**熱失神**

なぜ起き上がれないのか

意識消失

<作成: stnv基礎医学研究室>

意識が消失するという証拠
(法医学的な研究結果によると)

浴槽内での死亡例を診ると、**約9割(88.9%)に背中**の皮下出血が見られる。

次いで、**約7割(68.8%)に腰部**の皮下出血が見られる(重複分は、背中と腰の双方に見られる)。
次いで、**5割(50%)に背中上部**の皮下出血が見られる(重複分は、背中との双方に見られる)。

要するに、上記の皮下出血は、故人が意識消失の結果、立ち上がった姿勢から転倒して背中を強打することを示している。



(原図の出典
: <https://doi.org/10.1016/j.forsciint.2020.110146>)

なぜ意識が消失するのか

起立性低血圧と強打

なぜ起立性低血圧が生じるのか

- ① 入浴中の**座位姿勢**が、事前に低血圧の状態を作り出す(体位性低血圧)。
- ② 温熱効果による**血管拡張**が、事前に低血圧の状態を作り出す。
- ③ 座位から立位に変わるときの血圧上昇機構が働かない状態になっている = 既に**熱失神**(熱中症の一形態)が生じている。
- ④ 特に寒い時期(冬場)は、**入浴時間が長**くなって、熱失神が起こりやすくなる。

最善の対策は

急に立ち上がろうとしない

- ・先に上半身だけ湯から出して、半身浴の状態にし、体調を確認する。
- ・のぼせたりしていないことを確認した上で、浴槽の淵や手すりをしっかり持ちながら、例えふらついても直ぐに倒れないような工夫をする。
- ・一人暮らしなら、湯から出る前に浴槽の湯を抜く。



(出典: アロン化成)